

# 一般社団法人日本家政学会 家族関係学部会 ニュースレター

Council on Family Relations, Japan Society of Home Economics

2021 年度 第 2 号 2022. 2. 22 発行



編集 永田 晴子 (庶務担当)

発行 家族関係学部会事務局

\*\*\*\*\* INDEX \*\*\*\*\*

- 部会長より
- 第 41 回家族関係学セミナー報告
- 『家族関係学』編集委員会より
- 第 42 回家族関係学セミナーのご案内
- 庶務 (会員管理担当) より
- 会計より
- 会員のメルマガを利用した情報発信について

\*\*\*\*\*

## 部会長より

山根 真理 (愛知教育大学)

寒さ厳しい中にも、少しずつ春の兆しを感じる頃となりました。部会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでいらっしゃいますでしょうか。長引くコロナ禍の中、昨年 10 月 9、10 日に開催された第 41 回家族関係学セミナーもオンライン開催となりました。今年度になってからのオンラインへの変更で、吉田あけみ実行委員長はじめ、実行委員の皆様にご多大なご尽力をいただきました。お陰さまで自由報告、シンポジウムとも充実した内容で、画面越しではありますが参加者の皆様のお顔をみながら議論することができ、嬉しい時間でした。

2022 年の家族関係学セミナーは、10 月 29、30 日に大妻女子大学での開催を予定しています。韓国家族関係学会 (KAFR) との学術交流を含むプログラムを、対面とオンライン双方の可能性を視野に入れて準備してくださっています。セミナーに韓国家族関係学会からのゲストを招聘するのは 2015 年以来 7 年ぶりになります。久しぶりのセミナーでの国際交流実現に向け、準備を進めてくださっている実行委員の皆様、感謝申し上げます。部会誌『家族関係学』は 2022 年 12 月に第 41 号の刊行を予定しています。投稿締め切りは、2022 年 3 月 31 日です。ふるっての投稿をお待ちしています。

100 年に一度と言われるパンデミックは、家族に関わる日常生活にも、大きな影響を与えています。とりわけ女性の生活への影響は大きく、女性の仕事の不安定化、在宅ワークが女性へのケア集中をもたらしていること、DV や児童虐待件数の増加などが指摘されています。コロナ禍の中で生じている、家族に関連する諸問題について、家族関係学としてきっちり検証し、コロナ下での生活を支援する仕組みをいかにつくるかを考えることも、大事な仕事です。ウィズコロナの生活の中で得たオンラインの手法と対面での交流の両方を使いながら、家族関係学部会の社会的使命を果たしていきたいと思っております。よろしくご協力の程、お願い申し上げます。

## ★ ★ ★ 第 41 回家族関係学セミナー報告 ★ ★ ★

吉田 あけみ (第41回セミナー実行委員長/椋山女学園大学)

第 41 回家族関係学セミナーは、2021 年 10 月 9 日・10 日に椋山女学園大学での開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の状況により、10 月 9 日 (土) に大会事務局を椋山女学園大学におき、オンライン (Zoom) で開催しました。オンラインセミナーとなりましたが、むしろ、多くの方々が全国からご参加くださりまして、総計 100 名にご参加いただくことが出来ました。プログラム別の参加者人数は、自由報告第 1 分科会 62 名、第 2 分科会 64 名、シンポジウム 89 名、総会 55 名でした。

午前の自由報告は計12報告あり、第1分科会では李秀眞氏 (弘前大学) と木脇奈智子氏 (藤女子大学)、第2分科会では永田晴子氏 (大妻女子大学) と森田美佐氏 (高知大学) が座長を担当されました。

午後は「家庭科は多様な家族をどう教えるか」というテーマで、日本家政学会活動助成を得て、シンポジウムを開催しました。第1報告は、村田晋太郎氏 (三重大学 准教授) が「家族を教える授業で育てる資質・能力とは? —コミュニケーションスキルに着目して—」と題してご報告くださいました。続く第2報告は、綿引伴子氏 (金沢大学 教授) が「家庭科で家族を学ぶ意味を考える」を、第3報告は久保翔太氏 (愛知県南知多町立師崎中学校 教諭) が「中学生を取り巻く家族のあり方と家庭科教育」、第4報告は山田真希氏 (愛知県立松蔭高等学校 教諭) が「自分の中の家族を問う—高校家庭科での取り組み—」と題して、それぞれのお立場から、多様な家族の教え方について、実践報告や問題点などを話してくださいました。ご講演の後、先生方の実践を積み重ねられたのちの問題提起について、多くの質問があり活発な議論が行なわれました。司会は上野颯子会員と宮坂靖子会員が担当しました。

セミナー終了後にアンケートをグーグルフォームにてお願いしたところ、24名の部会員の皆さまから、充実した内容のご意見や感想をお寄せいただき、部会への期待と情熱を強く感じました。その中には開催場所を問わず視聴できるオンライン開催のメリットを指摘された部会員が多くいらっしゃいました。その一方で、音声聞き取りにくかったなどのご指摘もあり、また、やはり対面で活発な議論がしたいというようなご意見も見受けられました。

昨年に続きオンライン開催となりましたが、皆さまのご協力とご支援に支えられて無事終了することができました。心よりお礼を申し上げます。

第 41 回家族関係学セミナー実行委員会： 安藤 究 ・ 石川 周子 ・ 上野 颯子 ・ 冬木 春子  
宮坂 靖子 ・ 三輪 聖子 ・ 室 雅子 ・ 吉田あけみ

## ★ ★ ★ 『家族関係学』編集委員会より ★ ★ ★

表 真美 (編集委員長/京都女子大学)

### ○ 『家族関係学』41号への投稿論文の募集

『家族関係学』No.41への投稿原稿を募集いたします。多くの会員のみなさまから力作が寄せられますことを期待しています。

40号から、投稿はメールのみの受付となり、投稿規程、執筆要項も改訂されています。HPをご確認ください。原稿には、本部会ホームページからダウンロードした「投稿申込表紙」を添えて、MSWord形式およびPDF形式のファイル両方を、編集委員会(下記アドレス)宛にメール添付で送付してください。ご投稿をお待ちしています。

メール投稿締切期日：2022年3月31日(木) 24:00

編集委員会 E-mail edit★kazokukankeigaku.jp (★を@に置き換えてください)

### ○ 書評・文献紹介の対象となる図書情報の募集

書評・文献紹介の対象となるご著書等の情報を、ぜひお知らせください。2021年5月1日から2022年4月30日までの間に刊行され、部会員が執筆に関わったすべての文献を対象とします。自薦、他薦いずれも歓迎します。

編集委員会書評・文献紹介担当まで、1冊、献本をお願いします。もしくは、書誌情報【著者名・編者名、書名、発行年月日、発行所、税込価格、ISBN、執筆部会員名】をE-mailでご連絡いただければ幸いです。なお、ページ数に限りがあるために、すべての著作を取り上げることはできませんのでご了承ください。

締め切りは、2022年5月1日(日)とします。

〈書評・文献紹介担当〉

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲3-11 神戸大学鶴甲第二キャンパス 中谷奈津子 宛

Tel : 078-803-7720 Fax : 同左

編集委員会 E-mail: edit★kazokukankeigaku.jp ★を@に置き換えてください

## ★☆☆ 第42回家族関係学セミナーのご案内 ★☆☆

永田 晴子 (第42回セミナー実行委員長/大妻女子大学)

第42回家族関係学セミナーは、東京都千代田区の大妻女子大学千代田キャンパスにて開催します。参加、自由報告募集等、セミナーの詳細についてのご案内は、5月を予定しております。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

前回、本学にてセミナーを開催したのは、2014年(第34回セミナー)になります。あれから、本館の建替えなどもあり、本学の様子もだいぶ変わりました。当日は、本学へお越しいただき開催したい所ですが、現時点では、対面での開催またはオンラインでの開催の両方を想定して準備を進めております。今後の状況を見ながら、5月には、開催方法についてもご案内させていただきます。

日 程 : 2022年10月29日(土) ~ 30日(日)

会 場 : 大妻女子大学 千代田キャンパス 〒102-8357 東京都千代田区三番町12

アクセス : 市ヶ谷駅 (JR中央線(各駅停車)、東京メトロ有楽町線・南北線、都営新宿線) 徒歩10分  
半蔵門駅 (東京メトロ半蔵門線) 徒歩5分・九段下駅 (東京メトロ東西線) 徒歩12分

## ★☆☆ 庶務(会員管理担当)より ★☆☆

山下 美紀 (庶務/ノートルダム清心女子大学)

- ご住所・ご所属の変更、入退会のご希望については、下記までご連絡ください。
- 2017年度から学生会員の年会費が減額されております。会員区分に変動があった場合(たとえば学生会員から正会員へ)は、お手数ですが、下記までご連絡くださいますようお願い申し上げます。
- 情報提供のお願い

メールアドレス不明: 遠藤 マツエ・川村 千恵子・田中 弓子・松尾 敏之(敬称略)  
※連絡先の情報をお持ちの方はご連絡ください。

- バックナンバーの購入について

「家族関係学」の在庫は、30号(9冊)、31号(8冊)、32号(9冊)、33号(6冊)、34号(10冊)、35号(10冊)、36号(5冊)、37号(31冊) 38号(21冊) 39号(53冊)です。1冊2,000円で購入できます。購入希望の方は、下記の連絡先までお知らせください。ご所属の図書館等の蔵書としてもお買い求めいただきますようお願いいたします。

なお、『家族関係学』の在庫の保管・販売は2017年7月から、よしみ工産株式会社東京事務所に業務委託しています。購入希望者の方には、よしみ工産株式会社より郵送されます。

連絡先: ノートルダム清心女子大学 山下美紀

〒700-8516 岡山市北区伊福町2-16-9 Tel: 086-252-2142 Fax: 086-252-5145

E-mail: inquiry★kazokukankeigaku.jp (家族関係学部会事務局) ★を@に置き換えてください

★ ★ ★ 会計より ★ ★ ★

大風 薫 (会計/京都ノートルダム女子大学)

2021年度および過年度の年会費未納の方は、**2月28日(月)までに**年会費を振り込んでください。会計の都合上、期日厳守をお願いいたします。また、学生会員の年会費が2017年度より減額となっております(正会員5,000円、学生会員2,000円)。学生会員として年会費を振り込む場合は、必ず学生証の写しを下記までお送りください。郵送でもPDFや画像で送っていただいても構いません。

2022年度に学生会員として入金を希望される方については、提出期限や提出方法など、今後のニューズレターでご案内いたしますので、そちらをご確認ください。なお、学生会員の場合は2年分の会費を前納することはできません。

ご不明の点がございましたら、下記までご連絡ください。

年会費振り込み先：(郵便振替) 00310-6-30229 家族関係学部会  
連絡先：京都ノートルダム女子大学 大風 薫 〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1  
Tel：075-706-3672 E-mail：inquiry★kazokukankeigaku.jp (家族関係学部会事務局)  
★を@に置き換えてください

★ ★ ★ 会員のメルマガを利用した情報発信について ★ ★ ★

永田 晴子 (庶務/大妻女子大学)

家族関係学部会にかかわる活動で、会員間の相互交流や研究活動の発展に資する情報の配信を希望する方は、下記の要領で、事務局メールアドレスまで情報をお寄せ下さい。なお、発信内容が不適切であると役員会が判断した場合、情報が掲載されないこともあります。

<メルマガ配信依頼について>

【依頼先】 inquiry★kazokukankeigaku.jp (★を@に置き換えてください)

【メールの件名】メルマガ配信依頼

【配信内容】メール本文に①～④の内容を記載してください。

①情報のタイトル(「〇〇のご案内」など)

②配信内容(概ね600文字以内)

③主催者

④問合せ先

\*配信できるのはテキストデータのみです。ファイルを添付することはできませんので、ウェブサイトへのリンク等でご対応ください。

【メルマガ配信予定】年4回(5月・7月・9月・10～12月)

☼+++++++  
<家族関係学部会事務局>

〒700-8516 岡山市北区伊福町2-16-9

ノートルダム清心女子大学 山下美紀

Tel：086-252-2142 Fax：086-252-5145

E-mail：inquiry★kazokukankeigaku.jp (家族関係学部会事務局)

メルマガ配信アドレス：info★kazokukankeigaku.jp ★を@に置き換えてください

家族関係学部会ホームページのURL：http://kazokukankeigaku.jp

☼+++++++